

困難な闘い……**だけど俺たちはハンドルを握って闘いぬく**

日刊 動労千葉

79.11.16

No. 272

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五八・九（公衆電話）二七二〇七

スウェーデンにいた成田支部の仲間へ

「私たちの闘いは正義だ」この合言葉のもと、あらゆる困難をけつてうちぬかれた第一波（第二波ジェット・ストライキは、敵に大打撃を与え、空港廃港への展望を大きくあけ、闘う労働者・人民を激励し、「本部」反動分子の妨害をうちくだし、ストなし・総屈服の日本労働運動の危機的現状に大きな戦闘的再生への衝撃を与えた。全職場でこの成果をしつかりと定着させ闘いの拡大を勝ちとっていくための 職場討論を深めていこう。討論の素材として「日刊」編集部が成田支部の各職場で討論し取材したものを紙面の許す限りで紹介します。

佐倉の仲間も早く一諸に闘えるように……

● 二度目は自信もってやれた。 31才・検修係
● 当然、処分など考えられると思うが、その辺の展望はどうなのだろうか？ 29才・検修係
● 今、佐倉はどうなっているのか？ 俺は同じ釜の飯を喰ってきているからネ、気になっている。

● 成田は単独でがんばったけど、やっぱり一つより二つ、力が倍になるんだしネ。早く佐倉のほうも合流してきてほしいと思う。 52才・検査係

団結の強さは、どのようにしてつくられてきたのか

● 昔はストをやっても構内に入れたかった。今は力がついてきた。 54才・構内運転士

● 皆でまとまって闘ってきたからだんだん強くなった。そうじゃなければ、こんな（※三里塚の課題で）ストをやったらとくに首にされるよなア。 29才・検修係

● 地域的なつながりや、年令層のちがいなどを大切にしながら仲間同士の信頼が長い間かかってよくできている。それに支部の役員も各々のポジションをよく守って一所懸命がんばっているのを見てえらいと思う。成田の強さもそんな所にあるんじゃないのかな。自分も思っていることを何でもあけすけに話している。そういうのも団結の支えにプラスしていると思う。 44才・電運士

「本部」の妨害には頭に来た。反対同盟や支援からの激励や差し入れはうれしかった。

● 俺らと関係もたい「本部」の輩の奴らがひとの職場に入り込んで無責任にいちやもんづけだけやるのは本当に頭にきた。 28才・検修係
● 難しい事は、よくわからなければ……、あいつらを見て動労「本部」に行かなくてよかったなという実感はもっている。 50才・構運係
● 苦しかったけど、「本部」のやつらに対する意地でもと皆んながんばった。 32才・電運士
今までは、ろう城の時なんか自分たちで食料

なんか買い出しに行っただけど、今度は反対同盟や色んな支援の方からの差し入れなんか相当あって、皆でうんと食べられたもんな。よかった。

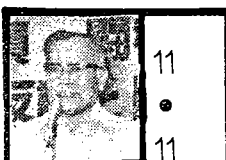
22才・検修係

ハンドルを握る悩みと闘い抜いた自信の葛藤

● 備蓄ゼロ・増送阻止でストをうったんだけど増送という面では当局は翌日から「総括重連」の仕事を押しつけてきた。状況はわかるけど、口惜しい。気持もスッキリしない。せめて一ヶ月間位でもブットメてやりたかった。 31才・検修係

● ジェットのストは春闘ストなどちがって要求をとってやるなんてできないんだという事は皆んなよくわかっている。でも現実に運ばれているという中で具体的に色々問題が発生してくるから、その点で執行部も機関士も皆悩みながらやっている。10・10事件と夜間帯列車問題なんかそう。 37才・電運士

● 動労千葉が独立して初めてのストを闘ったわけだけど、大局的判断からは大きく評価できる。でも成田の個々の組合員として考えた場合、このストで具体的に何かを成果として現物でとったかという点別に何も無い。逆に処分もあるし、「総括重連」にした時、雨の時なんか運転していて本員当にきついんだ。そういう問題はそれとして、今後、きっちり取り上げて解決していかなければいけないと思う。 43才・機関士（指名スト対象者）
● 労働者の闘いというものはたとえ何もとれなかったとしても闘わなきゃならないときもあると自分は思っている。今すぐ「物」で評価できる闘いといえなくても、将来の展望をかけて俺たちは闘いぬいたんだ。労働者本来の闘いをやりぬいたという自信を感じた。これからの闘いぬいていくつもりだ。 40才・機関士（指名スト対象者）



11・11 戸村委員長追悼集会

正午 三里塚第一公園
動労千葉は10時30分、成田運転区集合

団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！